



けんぽく農林ニュース

ふくしまから はじめよう。 「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

～県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する
情報をお知らせします～



今が旬のきゅうりは水分とミネラルを豊富に含んでいるよ！
昨年、生産額日本一となった県北地方のきゅうりを食べて残暑を乗り切ろう！



きゅうりの機械共選がフル稼働中！

(伊達地区)

佐藤吉彦さん(川俣町)、佐藤清和さん・久美子さん御夫妻(伊達市)

上野広行さん・弘子さん御夫妻(二本松市)が「福島県農業賞」を受賞されました！

令和元年8月27日(火)、福島市の杉妻会館において、「第60回福島県農業賞」の表彰式が行われました。「福島県農業賞」は、農業10傑と言われる本県の農業分野で最も権威のある賞のひとつです。今回、当事務所管内からは、農業経営改善部門で川俣町の佐藤吉彦さん、伊達市の佐藤清和さん・久美子さん御夫妻と二本松市の上野広行さん・弘子さん御夫妻が受賞されました。

佐藤吉彦さんは、花き生産専門の農業経営に取り組んでおり、基幹品目のカーネーションはほぼ年間を通して出荷できる体制を確立しています。

佐藤清和さん御夫妻は、夏秋きゅうりと冬春しゅんぎくの複合経営を展開しており、GAPの取得にも積極的に取り組んでいます。新規就農者に対しても親身な指導や、適切な助言を行っています。

上野さん御夫妻は、豊富な自給飼料を活用して高品質の肉牛を育てています。福島イノベーションコースト構想の先端農林業ロボット研究開発事業にも協力し、地域の肉牛生産をけん引しています。

以上のような他の模範となる優れた取組が高く評価されました。受賞者の皆様の今後ますますの御活躍を御祈念申し上げます。

(企画部)



佐藤吉彦さん



佐藤清和さん・久美子さん



上野広行さん・弘子さん



全体写真

農業生産法人雪割牧場有限会社へ視察研修に行きました！

岳地区の酪農家の間で、経営の組織化・法人化に関心が高まってきたことを受け、令和元年7月30日（火）に、岳地域の酪農家等11名が西郷村の農業生産法人雪割牧場有限会社へ視察研修に行ってきました。雪割牧場は、先人が開拓した農地を守っていくという強い意識を持った酪農家4戸が集まって、平成12年に設立された共同経営の牧場です。

雪割牧場の後藤誠代表取締役と田中進取締役専務から、共同牧場設立に至る経緯や設立後の経営の状況と課題についてお話しいただくとともに、設立を検討していたときに作成した詳細な資料を見せていただきました。地域の酪農を維持していくという強い意志と、共同牧場設立までにかけた時間と労力を直に感じる事ができ、酪農家の皆さんは刺激を受けたようでした。

当日都合により参加できなかった酪農家の方への報告会を後日予定しています。

（安達農業普及所）



共同牧場設立経緯について説明を受けました。



牧場入り口



献上桃の選果式が行われました！



令和元年8月5日（月）、伊達郡桑折町のJAふくしま未来桑折総合支店において、献上桃の選果式が行われました。

福島県では皇室及び各宮家に県産ももを献上しており、令和となった今年も桑折町産の「あかつき」が26年連続で選ばれました。

献上桃は、選果式当日の朝に収穫して共選場に搬入された約12万個のももの中から、光センサー選果機により一次選果を行い、糖度、着色、形状などを基準に600個が選抜され、さらにその中から優れたももを二次選果し、180個が厳選されました。

今年は7月の日照不足による果実品質への影響が心配されましたが、生産者の皆さんの日々の管理と梅雨明け以降の好天により、本県を代表するにふさわしい高品質のももを揃えることができました。

あかつきの出荷は終了しましたが、これからも晩生種のももが出荷されますので、管内の直売所でお求めいただき、おいしいももを御賞味ください。

（伊達農業普及所）



光センサー選果機での一次選果の様子



献上桃選果式(開会)



関係者による二次選果



箱詰めされた献上桃

「露地夏秋小ギク赤色 LED 電照栽培実証事業現地検討会」が開催されました！

令和元年7月24日（水）、二本松市の実証ほにおいて、福島県花き振興協議会主催による「露地夏秋小ギク赤色LED電照栽培実証事業における現地検討会」が開催され、県内の小ギク生産者、関係機関担当者等36名が出席しました。

今年度、次世代国産花き産業確立推進事業により需要期安定出荷のための夏秋小ギク赤色LED電照栽培の実証が当普及所管内の菅野勝氏のほ場他で取り組まれています。各実証ほでは、現在使用されている白熱電球に対し、消費電力の少ない赤色LED電球を用いて栽培した8月咲き小ギクの生育や開花状況を検討したところ、どちらの電球でも生育や開花状況にほとんど差がみられず、赤色LEDの実用性が確認されました。

検討会では、県園芸課より実証事業について、当普及所より実証ほの栽培概要や小ギクの生育について、県農業振興課より他県でのLED電照栽培の取組状況について説明され、実証農家より実証に取り組んだ感想が述べられました。菅野氏からは、電照栽培開始にあたっては資材の導入等の早めの準備が必要だが、需要期安定出荷を目指し、今後栽培技術の向上と電照栽培の拡充を図りたいとの話がありました。

当所としては、引き続き実証ほの調査を行い消費電力等も検討しながら、露地夏秋小ギク電照栽培の取組を支援していきます。

（安達農業普及所）



検討会の様子



実証の感想を述べる菅野勝氏



福島駅でもものPRパネルを展示しました！



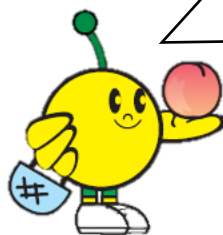
もものシーズン最盛期を迎えた令和元年8月6日（火）から8月19日（月）まで、JR福島駅新幹線改札内にて、旬のももをPRするため、福島県くだもの消費拡大委員会による「桃の木」の設置に併せて当事務所から「桃のPRパネル」を展示しました。

夏休みで帰省されたり、観光で来られた方々に、「ふくしまの桃」を少しでも身近に感じていただければうれしく思います。

（企画部）



福島駅でのパネルと桃の木の展示



今は「川中島白桃」や「ゆうぞら」が旬ですので、見かけたらずひお召し上がりください！

令和元年産稲WCSの収穫調製作業が始まりました！

令和元年8月28日（水）、伊達市保原町柱田のWCS用稲栽培ほ場において、令和元年産稲WCS（ホールクroppサイレージ）の収穫作業開始式が、稲WCS生産組合（長澤寿一組合長）及びJAふくしま未来主催で行われました。式には、県北WCS利用組合、伊達市、当事務所伊達農業普及所等、約20名が出席し、令和元年産稲WCSの栽培取組状況と収穫調製作業の日程説明の後、事故無く円滑に作業が進むよう関係機関が協力することを確認しました。

伊達市の稲WCS生産は、「稲WCS生産組合」（組合員数36名）が平成20年から取り組んでおり、今年で12年目になります。今年の栽培面積は23ha（103筆）で、9月下旬まで収穫作業が行われ、ほぼ全量が県北WCS利用組合の酪農家に契約販売され、乳牛の飼料になります。

これまで栽培品種は、「コシヒカリ」でしたが、酪農家からの品質向上の要望により、平成28年から晩生の稲WCS専用品種との組み合わせを行い、収穫適期幅を広く取っています。

今年は、専用品種「モミロマン」が6.2ha栽培され、収量性や作業性、飼料価値（品質・栄養価）について関係機関・団体が協力して調査しています。

なお、稲WCSの放射性物質濃度については、県が緊急時環境放射線モニタリングとして抽出検査を行うほか、生産側のJAふくしま未来と利用側の県酪農業協同組合がほ場ごとに検査し、製品の安全性を確認した上で納品します。

当所では、今後とも関係機関・団体と連携し、品質の良い飼料生産のための品種選定や栽培指導等について引き続き支援していきます。

（伊達農業普及所）



稲WCS 収穫作業開始式



ロールベアラでの収穫作業の様子

第45回福島県緑の少年団大会が開催されました！

令和元年7月29日（月）に大玉村農村環境改善センターとふくしま県民の森において、福島県緑の少年団大会が開催されました。

県内各地から緑の少年団12団102名が集う中、県北地方からは、伊達市の石田みどりの少年団と大玉村の玉井小学校緑の少年団、大山小学校緑の少年団の3団が参加しました。

午前中に大玉村農村環境改善センターで式典が行われ、緑の少年団活動実績発表大会の表彰式や代表発表、苗木の贈呈等が行われました。

苗木の贈呈は森林・林業・緑化協会から各緑の少年団に対して行われ、代表として玉井小学校と大山小学校の緑の少年団がヤマザクラとヤマボウシを受け取りました。

午後はふくしま県民の森で自然観察会と木工クラフトが行われました。

当日は30度を超える気温でしたが、森林内の木陰は比較的涼しく、鳥のさえずりや水のせせらぎを聞きながらの散策や、カンナを使用した木製の箸の作成、コースターづくりなどが行われました。参加した子どもたちの楽しい夏休みの1ページになったのではないのでしょうか。

（森林林業部）



緑の少年団 団旗入場



苗木の贈呈



県民の森内で自然観察



木製のコースター作成

FUKUSHIMA☆サイエンスカフェを開催しました！

令和元年8月6日（火）、福島市アクティブシニアセンターアオウゼにおいて、当事務所主催による「FUKUSHIMA☆サイエンスカフェ」を開催しました。

子どもたちの夏休みに合わせ、県北の旬なくだものと県産きのこについて知ってもらうために自由研究のテーマとなりそうな内容を盛り込みながら、県産農産物のPR、地産地消・消費拡大、食育体験をねらいに開催しました。

午前の部は「なめこ」。親子5組12名が参加し、講師に二本松市東和季の子工房の武藤一夫氏を迎え、震災以来、県産「原木きのこ」は地域によって出荷ができなくなっていることや、現在武藤氏が作っている「菌床なめこ」の作り方などを講演いただきました。講演の後は、冷凍庫を使わないで「なめこアイス」を作る実験を行い、試食をしました。参加者からは、「なめこアイスはどんな味かわからなかったけど、思ったよりもおいしい」などの感想が聞かれました。

午後の部は「もも」。親子8組20名が参加しました。講師の当事務所農業振興普及部、赤井主査から、福島県のももの栽培面積や収穫量が全国第2位であることや、福島のももの主力品種「あかつき」の誕生秘話などをお話した後、なめこと同様に冷凍庫を使わないで「ももアイス」を作る実験を行い、試食をしました。参加者からは、「とてもおいしかったので、もも以外のくだものでもアイスを作りたい」などの感想が聞かれました。

当事務所では、今後も県北産農林産物の消費拡大と地産地消、食育の推進につながる活動を続けていきます。

（企画部）



武藤氏の講演



なめこアイスづくりの様子



なめこアイスづくりの様子



なめこアイス、どんな味かな？



赤井主査の講演(絵本「あかつきむらのももばたけ」の読み聞かせ)



ももアイスづくりの様子



ももアイスづくりの様子



おいしいももアイスができました。

ドローンによる農業用施設の管理・点検等へ向けた試験飛行を実施しました！

当事務所では、ダムやため池などの農業用施設の管理や点検を行うためのデータ収集、土地改良事業実施地区での状況調査などを効率的・効果的に行うため、ドローンを活用していく予定です。

そのため、所内の研修及び試験によりドローン操作の認定を受けた職員が、二本松市にある山ノ入ダムにおいてドローンの試験飛行を行い、堤体等を撮影しました。実機を使用しての撮影は初めてでしたが、きれいに撮影することができました。

なお、個人等が県有ダム等の敷地内でドローンを使用する場合は、あらかじめ施設管理者の許可が必要となる場合がありますので御注意願います。

(農村整備部)



ドローン操作の様子



ドローンより撮影した山ノ入ダム

「西根堰の隧道探検！」が開催されました！

令和元年8月8日（木）、伊達西根堰土地改良区（愛称「^{みどり}水土里ネット西根堰」）が主催する「西根堰の隧道探検！」が開催されました。

このイベントは、水土里ネット西根堰が、水の恩恵を受けている農村地域や農業用施設を題材にした広報イベント等を推進する「水土里を育む普及促進事業」の一環として、西根堰の役割や歴史、水の大切さを理解してもらう目的で開催され、約20名の親子が参加しました。

子どもたちは福島市飯坂地内の西根上堰頭首工（水路の取入口）から約500mの水路トンネルをタイヤチューブに乗って探検しました。探検中、子どもたちからは「水が冷たくて気持ちいい」、「トンネルが暗くて怖い」、「コウモリがたくさん飛んでる」等の声が上がりました。

伊達西根堰土地改良区の石川博利事務局長からは「水路を作った先人達に感謝し、水が与えてくれる恵みにも感謝しましょう」との話がありました。

また、今年の11月には西根堰の歴史を感じながら歩くイベント「“西根堰”ノルディックウォーキング」が開催される予定です。西根堰の歴史に興味を持った方はぜひ御参加ください。

詳しくは「水土里ネット西根堰」にお問い合わせください。

西根堰とは

西根堰は、今から400年前の江戸時代初期（1618年）に作られた農業用の水路で、福島市飯坂地区で摺上川から取水し、福島市北部から桑折町、国見町、伊達市に至る西根上堰と下堰の総称です。改修を重ねながら今でも使われており、この間地域を潤し、現在は、阿武隈川の東側地区の東西15km、南北20～40kmに渡る水田や畑、約1,400haに水を供給しています。また歴史的評価も高く平成22年に選奨土木遺産に認定されました。

<問い合わせ先>

「水土里ネット西根堰」 TEL:024-582-2319 Email:nishineseki@bz01.plala.or.jp

（農村整備部）



タイヤチューブの乗り方についての説明



探検に出発！風が涼しい

『福島酒 50 号』の現地検討会を開催しました！

令和元年8月8日(木)、福島市松川町において、福島地域酒米研究会の現地検討会が開催され、会員及び関係者ら19名が出席しました。

はじめに、JAふくしま未来松川営農センターにおいて、丹野友幸会長のほ場で試験栽培を行っている『福島酒 50 号』やその他の酒造好適米の生育について、当事務所から説明を行いました。『福島酒 50 号』は、「夢の香」に次ぐ福島県の新しい酒造好適米で、倒伏しにくいいため栽培しやすく、日本酒にすると雑味が少なく香り高い酒になりやすいといった特徴があります。その後、意見交換では、会員が自分たちの活動経過や栽培品種について意見を述べました。質疑応答では、『福島酒 50 号』を今後栽培したい会員から積極的な質問が出されました。

続いて、福島市松川町内のほ場3カ所において、「五百万石」と『福島酒 50 号』、「夢の香」を見学しながら、各生産者から今年の生育状況等について説明を受けました。

研究会では、今後講演会や新酒お披露目会等を予定しており、当事務所としましても、引き続き支援を行っていきます。

(農業振興普及部)



丹野会長による挨拶



福島地域酒米研究会会員



『福島酒 50 号』の出穂状況を確認する丹野会長

大豆難防除雑草対策実証ほの現地検討会を開催しました！

令和元年8月1日（木）、福島市松川町において、当事務所が設置した大豆難防除雑草対策実証ほの現地検討会を開催し、生産者及び関係機関担当者17名が出席しました。

本実証ほは、近年大豆畑で大きな問題となっている「帰化アサガオ類」に対し、新しく登録された除草剤の効果を実証しています。

参加者からは、「除草剤導入に係るコストはどの程度か？」などの質問もあり、「帰化アサガオ類」対策への関心の高さがうかがえました。

当事務所としては、今後も「帰化アサガオ類」の発生状況と大豆の生育調査を継続しながら、大豆難防除雑草対策の確立に向けた支援を行っていきます。

（農業振興普及部）



実証ほでの意見交換



除草剤により枯れた帰化アサガオ

福島市・川俣町地方農地中間管理事業推進連絡会議を開催しました！

令和元年8月5日（月）、福島市において「福島市・川俣町地方農地中間管理事業推進連絡会議」を開催しました。

本会議は、福島市及び川俣町における農地中間管理事業の関係者20名が参加し、活動計画の検討や情報の共有化を図り、担い手への農地集積や集約化を推進していくために開催しています。

今回の会議では、喫緊の課題である「人・農地プランの実質化」に向けて関係者が連携して取り組んでいくための推進体制などを検討しました。

「人・農地プラン」とは、地域における農業の将来の在り方などを明確にするものですが、これまでに作成された一部のプランは策定後の動きがないものもあり、その実質化が求められています。

このため、当事務所としましても、関係者が連携して「人・農地プランの実質化」に取り組み、地域の皆さんの話し合いにより「将来にわたって地域の農地を誰が担っていくのか」を決めていくためのサポートを行っていきます。

（農業振興普及部）



福島市・川俣町地方農地中間管理事業推進連絡会議



人・農地プランの実質化について

令和元年7月

Ver. 1

農林水産省

「野生きのこ」は出荷が制限されています！

野生きのこの採取シーズンを迎えていますが、県内では中通りと浜通りの全部、会津地方の一部で採取された「野生きのこ」は、放射性物質の影響により出荷が制限されています。

このため、自主検査により「基準値（100Bq/kg）以下」であっても出荷・販売や譲渡（知人等への提供）は行わないでください。また、飲食店や宿泊施設等での提供や加工用原材料としても使用しないでください。

出荷が制限されていない産出地（湯川村、金山町、南会津町、檜枝岐村）で採取したきのこを販売する際は、県のモニタリング検査を実施してから出荷してください。

また、「栽培きのこ」についても産出地によっては出荷が制限されている品目がありますので、最新の情報は福島県ホームページなどで確認いただくか、当事務所にお問い合わせください。

◆福島県農林水産物・加工食品モニタリング情報 URL

<https://www.new-fukushima.jp/>

なお、福島県では、各地方の森林組合と連携して山菜や野生きのこの出荷制限解除にむけた調査事業を進めています。所有する土地での野生きのこ発生情報がございましたら、当事務所へお知らせいただくとともに、検体の提供に御協力をお願いします。

◆お問い合わせ先

福島県県北農林事務所 森林林業部林業課

電話 024-521-2632

FAX 024-521-2851



(森林林業部)

第2回ふくしま植樹祭 ~ABMORI~ 参加者募集！！

復興に向けて力強く歩む福島の今を発信し、植えて、育てて、利用して、また植える。持続可能な循環の森林づくりを進めるため、第2回ふくしま植樹祭が開催されます。

植樹・育樹活動以外にも、ツリーライミングや森林のアロマづくり、森林セラピーヨガなどの参加型プログラムが実施されます。

御家族、御友人をお誘い合わせのうえ、奮って御参加ください。

■日時

令和元年10月6日（日） 10:00～14:00

■会場

ふくしま県民の森（安達郡大玉村玉井字長久保地内）

■応募締め切り

令和元年9月10日（火）

※定員（2,000名：先着順）に達し次第締め切り

■お問い合わせ先

ふくしま植樹祭実行委員会事務局

電話 024-933-2805（土日を除く 10:00～17:00）

■申込方法

下記HPから申込みください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055d/2syokuzusyusai.html>

（森林林業部）

未来へつなぐ 希望の森林づくり

第2回 ふくしま植樹祭 ~ABMORI~

日時 2019.10.6 日 10:00-14:00

会場 ふくしま県民の森

復興に向けて力強く歩む福島の今を発信し、植えて、育てて、利用して、また植える持続可能な循環の森林づくりを進めましょう！

森林づくり体験交流会 参加型プログラム

樹木観察
少花苗の植え付け
アロマづくり
ツリーライミング
自然観察体験

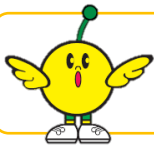
タイムスケジュール

開会式 [10:00-]
植樹・育樹活動
交流イベント活動
閉会 [14:00]

参加者に抽選で「ABMORIグッズ」プレゼント！

ミス日本 みどりの女神がやってくる!!

ふくしま植樹祭実行委員会事務局 TEL.024-933-2805 (土・日を除く10:00～17:00)



けんぼくの直売所紹介

けんぼく道の駅巡り②

県北管内には現在8つの道の駅があります。今回は「道の駅巡り」の2回目として、二本松市の「道の駅 ふくしま東和」と福島市の「道の駅 つちゆ」をご紹介します！ドライブの休憩や、休日のお出かけはぜひ道の駅へ！！



道の駅 ふくしま 東和



二本松市の東部に位置する旧東和町は、阿武隈高地の山並みに抱かれ、里山の営みが連綿と生きています。養蚕が盛んだったこの地では蚕の飼料となった桑の葉をいまでも大切に作り続けています。

手作りジェラードショップにも「桑の葉ジェラード」「桑の実ジェラード」がありますので、時季を問わずにぜひ御賞味ください。

【駅長のオススメ商品】



手打ち桑うどん

和食処みちくさ亭 (11:00~14:45)

ご当地名物手打ち桑うどん。冷温取り揃えておりますので、ぜひ御利用ください。

【オススメ6次化商品】



桑の葉パウダー (1袋 50g)

この1袋で湯飲み 125 杯分、飲みたいときにすぐ飲めるお手軽桑茶です。料理やお菓子の材料にもオススメです！860 円 (税別)

〒964-0111 福島県二本松市太田字下田 2 番地 3 ☎0243-46-2113

<https://touwanosato.net/>

道の駅 つちゆ



平成5年に福島県で一番最初に登録された道の駅です。標高 800 メートルの吾妻連峰の中腹にあり、福島市街を一望できます。温泉巡りや磐梯吾妻スカイラインのドライブの際にぜひお立ち寄りください。

吾妻連峰の美しい景観、澄んだ空気とおいしい水とともに、お待ちしております。

【駅長のオススメ商品①】



山の恵みの天ぷら丼 800 円 (税込)

館の手づくりこんにやく・土湯温泉の温泉たまご・季節のお野菜の揚げたて天ぷらに自家製たれをたっぷりかけたボリューム満点の大人気どんぶりメニューです。自慢のおそばも付いています。

【駅長のオススメ商品②】



(右) つちゆ温泉ミスト 1,400 円 (税込)

(左) 温泉フェイスマスク「湯肌美人」 540 円 (税込)

土湯温泉の源泉を 100% 使用したミスト化粧水ができました！温泉パワーでしっとり潤います。お土産にも最適です。

〒960-1243 福島市松川町水原字南沢 41-2 ☎0243-24-2148

<http://www.thr.mlit.go.jp/road/koutsu/Michi-no-Eki/fukusima/fu01.html>

編集・発行 福島県東北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

